

GOKURAKUJI DAYORI  
極楽寺だより  
2024(令和6)年 8月号



発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派）☎ 759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎ 0837-43-0625

# 盆法会

いのちを尊ぶ法要

魚法会

全戦争犠牲者追悼法要

## ご案内

### 八月十五日（木）朝九時より

今年から、十五日の一日のみお勤めします。

一時間くらいで終わります。

暑い中ですが、お誘いあわせお参りください。

### 法要終了後

### 九時四十分頃から

平和への願いを、響き渡る鐘の音に重ね、いのちを尊ぶ生き方の一歩としましょう。どなたでも撞くことができます。

## 平和の鐘を撞きましょう

※ お盆期間中、納骨堂にお参りされる方。ぜひ本堂にもお参りください。懐かしい写真も掲示してあります。

お寺からの  
お願い

納骨堂の参拝についてのお願いです。くれぐれも火の後始末をお願いします。特に、続けてお参りされる場合、ロウソクの火を「次の人のために」と消さないままにされるところに落とし穴が！結局つけっ放して危険なことに…。次の方に「ロウソクの火を消して下さいね」と、一言かけていただけると、助かります。





## 迷わないことの恐ろしさ

### 「迷わない先生」と「迷う先生」

娘が中学生だった頃、対照的な二人の先生と出会いました。「迷わない先生」と「迷う先生」です。

「迷わない先生」は、真面目で一生懸命。でも「これが正しい」「ルールではこうだ」と自分の思いを優先し、生徒の思いを聞こうとしない方でした。一方の「迷う先生」は、娘の担任の先生です。悩んでいた娘に「この子にとって、一番良いことは何だろう」と迷いながら、接してくださいました。本当に有難いことだと、今でも感謝しています。

私たちは「迷ってはいけない」と考

えがちです。何より仏教は「迷いの存在(凡夫)から、悟りの存在(仏)に成る」ための教えですから。しかし同時に、「迷いの自覚」を重視する教えでもあるのです。



～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

仏教では、迷いを「無明」とも表します。という、何も見えない暗闇で、手探りしながらさまよう姿をイメージする方も多いのではないだろうか。

ところが「無明」とは、もつと深い迷いなのです。

迷いの自覚があれば、人は道を探し求めます。謙虚に聞くことも、自分をふり返りもするでしょう。でも、迷っている自覚がなければ、一生懸命に突き進むだけ。人の思いを聞くこともなく、正しさを押しつけ、傷つけても気づきもしない。そんな確信に満ちた迷いこそ「無明」の姿だと教えられますのです。

親鸞聖人が「日本のお釈迦さま」と尊敬された聖徳太子は、

「われかならず聖なるにあらず、かれかならず愚かなるにあらず、ともにこれ凡夫ならくのみ」(『憲法十七条』)

と示されました。私がいつも正しいわけではなく、彼がいつも間違っているわけでもない。ともにただの人間なのだ。私に「迷いの自覚」をうながし、人間というものの事実<sup>じじつ</sup>に立ち戻らせて

西本願寺の冊子『大乘』から、法話の執筆依頼がありました。せっかくですので、『極楽寺だより』にも掲載いたします。

くださる言葉です。同時に、人間を温かく見つめるまなざしが感じられます。

## 清浄なる世界とは

「我々は、ウクライナの汚れを

浄化するためにここに来た」

これは二〇二二年、国際人権団体ヒューマン・ライツ・ウォッチが報告した、ウクライナ侵攻におけるロシア兵の言葉です。我々は正しく清らかで、逆らうヤツらは汚れている。その汚れを浄化するために殺すのだと。ゾっとしました。正義を振りかざす時、人はかくもためらいなく、冷酷になれるのかと。

しかし歴史をふり返れば、同様の言葉を掲げ、人類は悲惨な過ちを繰り返してきたのです。ユーゴスラビア紛争の民族浄化、ナチスのホロコーストやカンボジアのキリングフィールド。オウム真理教のポアもそうでしょう。私たちの身近にも、正義の言葉で人を叩き、追い詰め、死に至らしめる「炎上」が起きています。正しいと思うから止まらない。迷わないから突き進むのです。真面目に、一生懸命に。

阿弥陀さまの国土「浄土」も、清浄なる世界だといわれます。



～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～ OSHIE NO KAKERA ～

しかしお浄土は、汚れを排除する世界ではありません。親鸞聖人は、「凡聖・逆謗、齊しく回入すれば、衆水海に入りて

一味なるがごとし」(『正信偈』)

と示されています。どんな経緯を辿ってきた川の水も、海に注ぎ込めば皆同じ塩味になるように、凡夫も聖者も、逆らい謗る者も、一切の衆生(すべての生きとし生ける者)を受け入れ、清らかな仏と成らしめる世界、それが阿弥陀さまのお浄土なのだ。

「逆らい謗る者でも」というところが、凄いですよね。しかし実はこれ、とても厳しいことでもあるのです。なぜなら、「あんなヤツと一緒にするな」と思ってしまうのが、私たちなのですから。

## あんなヤツと一緒に

私たちの宗派には、僧侶養成のためのさまざまな機関や研修があります。中には、百日間の寮生活を送る過程も。その寮は、基本二人一部屋です。気の合う二人だと楽しい時間ですが、相性の悪い相手だと地獄のような日々になりかねません。私自身はその過程を受講してはいないのですが、つらく苦しい日々を味わった人の話を聞きました。但し、同部屋の相手も同じ思いだったでしょうが。

その方は寮生活を終えた後、こう言われたそうです。「あんなヤツとだけは一緒に、お浄土に往きたくない」と。お気持ち、よくわかります。私も同じ状況なら、ついつい言ってしまうそうです。

ただ、この話を聞いて、私は対照的な言葉を思い出しました。以前、ある人の不遜さを、私と先輩でグチっていた時のこと。先輩が、私にこう言われたのです。「あんなヤツとも一緒に、お浄土に往かなくてはならないのか」と。

よく似た言葉です。でも、中身は全く違います。前者の判断基準は、好き嫌い。お浄土という言葉を使いながら、実は自分の思いが優先されています。しかし先輩が優先されたのは、阿弥陀さまの願いでした。「私には嫌なヤツとしか思えないが、共に願いをかけられている仲間なのだ」と、迷いの自覚に立ち戻る生き方を、リアルに示してくれました。あの衝撃と感動は、今でも忘れられません。

しかしその感動は、後に私を苦しめることになりました。なぜなら私は正義感が強い上に、好き嫌いが激しく、心の狭い人間だからです。これが謙遜ではないのが、悲しいところなのですが。

先輩の言葉に出会う前は「一緒に往きたくない」と、迷いなく排除したであろう私。しかし「それが阿弥陀さまのお心なのか。」

~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~ OSHIE NO KAKERA ~

自分の都合を優先しているだけなのは。それは私が救われる根拠を、否定することになるのではないかと、ためらい迷うようになりました。斬り捨てる爽快感を味わえず、悶々とするのが苦しいのです。でも、自分の思いにブレーキがかかることが、どこか嬉しくて。心の狭さは相変わらずですが、「悪口もこの程度にせねば」「トラブルにならぬよう、慎んで遠ざかろう」というたしなみも生まれてきます。

私たちは、自分の思いを優先するためには、何でも利用するのでしょうか。たとえ阿弥陀さまでも。そして自覚が無くとも。それが怒りや対立に火を注ぐものになり、エスカレートすれば、大きな悲劇にもつながりかねません。だからこそ、迷いの自覚に立ち戻らねばならない。そんなうながしが、お念仏に込められて、すでに私へ呼びかけられていたのです。

しかし、うながしに気づかされてこの程度。もし自覚のないままだったらと考えると、ゾッとします。そんな私のために向けられる温かなまなざしがあることを、また自覚せねばと思う今日

この頃です。 ■



# 月々の言葉

Monthly Words



## 8月の言葉

病院や福祉施設の方々はまだまだ警戒けいがいしておられるでしょうが、コロナ禍かはようやく落ち着きを見せ、以前と変わらない日常生活と なってきたように感じる今日この頃です。これまで、大変な思いをされた方もあるでしょう。ホツとしておられる方も、多いことだと 思います。

ただ、コロナ禍かを挟はさんで、色んなことが変わりました。特に法事 やお葬式は、身近な人だけの簡素かんそなものへと変わっています。この 流れは、どんどん加速かそくしていくのでしょうか。それぞれにご事情じじょうも あることですから、簡素化かんそくがいけないということではありません。 ただ簡素化かんそくが、そのまま軽々かるがるしい扱いへとつながることを、私は警 戒けいがいしているのです。

「人間が一人死ぬとは、こんなに大変なことなのか」と経験する ことは、「人間が一人生きていたということが、どれだけ大きな

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

ことだったのか」ということを知ることもありません。身近な人の 死を通して、自らもまた死という現実を抱かかえながら生きていること を突つき付けられ、人生そのものが問い直される。そして、そこで生 まれた問いが、人生をより深く、豊かなものへと育ててくださる。 そんな法事や葬儀が本来持っている大切な役割やくわりが失われていくこと は、同時に人間の大切なものを失わせ、人間そのものを軽々しく扱 うことになるのではないかと心配しているのです。

私たちは、頭だけで「わかっている」と思いがちです。でも、「人 間が死ぬ」ということは誰もが頭ではわかっているはずなのに、近 しい人の死に「まさか」と驚き、自分に死が突き付けられると「な ぜ」と、慌あわてふためくではありませんか。頭だけの「わかっている」 ほど、いい加減かげんなものはありません。身体を通して経験することは、 とても重要なのです。

そういう意味でも、私は法事や毎年 の行事といった節目ふしめがあるということ は、本当に有り難いことだと思うよう になりました。節目があるからこそ、 立ち止まり、振り返り、味わうことが できる。節目がなかったら、忙いそしく、 気忙きせわしい時代ですから、様々なこ



とが軽く流されてしまうような気がするのです。

さて、今年は元旦から能登半島で地震が起き、たくさんの方が被災されました。そして、東日本大震災が起きて十三年目に当たる年でもあります。

ところで皆さんは、あの東日本大震災が起きた二〇一一年の『今年一年をあらわす漢字』を覚えておられるでしょうか。この質問をすると、「何だっただろう…」と首を傾げられる方も多いですが、答えを言えば皆さん口を揃えて「ああ、そうだった!」と言われます。

正解は、「絆」です。あの悲惨な光景を目の当たりにしながら、人間は助け合い、支えあわなくては生きていけない。何より、いつ自分が助けを求める側になるかわからない。そんな事実を

えていることを、思い知らされたのではなかったでしょうか。だからこそ、あの年の『今年一年を表す漢字』に「絆」が選ばれた。そして何年経っても、誰もが「そうだったなあ」と思い出す。他の年の漢字は、ほとんど覚えていないのに。それほど、大きな経験でした。

ところがしばらくすると、国会議員の方が「生産性のない人には、税金を使う必要がない」と言い出しました。もう、切り捨てが始まったのかと、驚いたことを覚えています。そして五年後の二〇一六年には、相模原市で「障害を持っている人は世の中の役に立たないから、

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

殺した方がいい」と、十九人も人が殺された事件がありました。事件を起こした彼は、「これでオレは、世の中の役に立った」と言い、インターネットには「お前が正しい」という書き込みが多くありました。そして後に彼は、「僕は世の中の役に立たない人間だった。だから、世の中の役に立つ側に回りたかった」と話したそうです。「役に立つか立たないか」「生産性があるかないか」が生きる資格のように語られてしまう。この事件は、今の時代を象徴的に表したものとして、強く心に残っています。

私たちは震災を通して、「人間は助け合い、支えあわなくては生きていけない。何より、いつ自分が助けを求める側になるかわからない」ということを思い知らされたはずです。だから、その年の漢字に「絆」が選ばれて、今でも記憶に刻み込まれている。にもかかわらず、しばらくすると忘れて、目先の「役に立つか立たないか」ばかりを追いかけてしまうのが、私たちなのですね。経験しなければわからないし、経験しても忘れてしまう。だからこそ、節目、節目に立ち止まり、振り返らなくてはならないのでしよう。



そして法事も大切な、大切な節目の一つなのです。阿弥陀さまの前で手を合わせ、亡き人との想い出を通してながら自分の人生を振り返る。あんなこともあった。こんなこともあった。あの時は、ああ思ったけれど、今振り返れば、こんなふうを受け止められるなあと味わい直す。そんな営みが、まさに人生を耕すことになるのです。「耕す」とは、下の土を掘り起こし、風に当て、陽の光にあてる。それを繰り返していく中で、土地は豊かになっていく。同じように私たちの人生も、耕し、掘り起こし、振り返っていかなければ、豊かなものにはならないのです。忙しさに流されて、「わかってる」と頭だけで理解したつもりになって、結局忘れながら生きるのであれば、それは痩せ細った貧しい人生にしかありません。

だからこそ、節目である法事を大切に勤めねばと思うのです。繰り返しますが、それぞれのご事情に合わせて簡素化されても構いません。でも、大切なものとしていただき、お勤めしていきましよう。

但し、私の尊敬する宮城顕先生は、「法事には落とし穴があるから気を付けなさい」と言われていました。簡素化したものであっても、やはり法事は準備が大変です。色々とも使いますし、お勤めも長い。だから終わるとホッとする。「やれやれ、終わった！これで当分父ちゃんのことを考えなくて済む」と考えてしまいがちになる。ここに、

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

落とし穴があるのだと。法事を勤めることで、逆に亡き人を遠ざけることになりかねないのですから。

節目である法事を、ただスケジュールをこなすだけにせぬよう、気をつけねばなりません。大切なことを忘れ、人生を貧しいものにしてしまわないように。 ■



## 極楽寺だよりを送りませんか

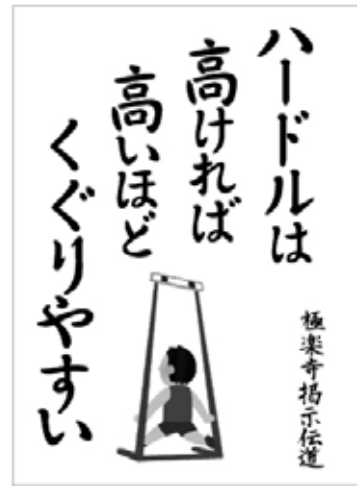
都会に出ておられる子どもさん、お孫さんたちへ。有縁の方々へ。お寺へお申し出下さい。直接郵送します。送り先が増えると、住職はうれしいのです。



極楽寺  
ホームページ

極楽寺.comで検索  
又はQRコードから





## 9月の言葉

「ハードル」とは、陸上競技で使われる器具のこと。各レーンに設置された障害物(ハードル)を越え、いかに速くゴールできるかを競うレースで使われます。

そこから転じて、日常生活における障害、乗り越えなくてはならない困難や問題を「ハードル」と呼ぶようになりました。ですから「ハードルが高い」とは、その難度が高いことを意味します。

但し、陸上競技のハードルは「必ず越えなくてはならない」というルールが定められていますが、人生のハードルは、必ずしも越えなくてはならないものではありません。視点を換えれば、くぐり抜けたり、回り込んだりもできます。乗り越え方は自由であるはずなのですが、「こうしなくてはならない」という

凝り固まった思いに執着して、自分を



Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

苦しめる。そんな生き方をしてはいないでしょうか。

「念仏者は無碍の一道なり」

これは『歎異抄』という書物(第七条)に記された親鸞聖人の言葉です。「無碍」とは、障害となるもの、妨げるものが無いということ。つまり念仏を称え、念仏と共に生きる者は、何ものにも妨げられることのない、一筋の道を歩むのだと言われるのです。

このように聞くと、念仏を「人生のハードルを取り除いてくれる呪文」のように受け止められる人があるかもしれません。一般的に「無碍(障害、妨げるものがない)」とは、困難や問題の無い、快適で思い通りになる人生を思い浮かべる方が多いでしょうから。

しかし残念なことに、私たちは人生を歩む限り、困難や苦悩を避けることはできないのです。しかも思い通りで快適な人生を追い求め、困難や苦悩を遠ざけようとするほどに、実は、逆に不快な障害が増えていくのです。

近頃は、昔では考えられなかったクレームが増えていますよね。「子どもの声がうるさい」「除夜の鐘がやかましい」「隣の田んぼのカエルがうるさいから、田んぼの持ち主を訴える」などなど。快適な環境が整い、快適さのハードルが上がることで、これまでは何とも思わなかったことが不快に感じるようになったからです。そうして被害者意識

が強くなり、ストレスが溜まっていく。快適さを求めようとする思いが強くなるほど、快適さを妨げるものが増え、不快さが増していくという皮肉な状況になっている。これが現代社会の有り様です。

親鸞聖人の示される「無碍」とは、障害を無くすものではありません。お念仏のみ教えをいただく者は、障害や困難を通して見えてくる、尊い世界へと導かれるのです。病気や、苦悩する経験を通して、今まで気づかなかった優しさを知らされる。当たり前だと思っていたことが、いかに有難いことか、様々な人たちのお陰によるものかと気づかされる。死を突き付けられることで、生死をこえてこの私を受け止めてくださる世界があることに目覚めさせられる。世界が深まり、新しい出会いが広がっていく。お念仏のみ教えをいただくことで、ものの見方が変わり、今まで困難や妨げだと思っていたことが、新たな世界と出遇う縁となり、大切な経験へと転じられていくのです。

『大無量寿経』には、「身心柔軟」という言葉が出てきます。阿弥陀さまの光に触れることで、自らの身や心が柔らかくなっていくのだと。それは、それまでの「こうでなくてはならない」という凝り固まった思いがほぐされ、柔軟な視点が与えられていくことです。とはいえ、お念仏を称えたらすぐに、もの見方や生き方が激変するということではありません。「自分の考えは凝り固まっていたのだ」と気づかされることで肩の力が抜け、柔らかな生き方への歩みが始まるの

Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words ~ Monthly Words

です。

つまり無碍とは、困難が無くなるわけではありません。人生のハードルだと思っていたことが柔らかに転じられ、大切なご縁といただけるようになる。苦悩していた日々が、虚しいものにならなくなる。人生まるごとすべてが、大切なものとなる。そんな生き方へ、育てられるということなのです。



そして「無碍」にはもう一つ、「自由」になるという意味もあります。道が定まることで、私たちは自由になるのです。

一般的には「自由」と聞くと、勝手気ままにふるまうことだと思われがちです。だから、道が定まると聞くと、束縛を受けるようなイメージを持つ方も多いのではないのでしょうか。しかし仏教では、勝手気ままにふるまうことを「自由」とは言いません。それは、煩悩に振り回されているだけのこと。

そもそも、私たちがしたいと思っていることは、本当にしたいことなのでしょうか。流行に踊らされ、購買意欲や不安を煽る広告に、振り回されているのではないですか。周りと比べることで生まれた「うらやましい」という思いが、私を駆り立てているのではないのでしょうか。周りの様々な声に振り回され、実は自分を見失っているのかもしれない

ません。

念仏の道が、私の歩むべき道だと定まることは、本当に求めるべきことが明らかにすることであり、誰の声を聞くべきかが定まることなのです。本質が明らかになることで、何が些末なことなのかも知らされ、融通も応用も効くようになる。立ち戻る場が与えられ、地に足のついた生き方をいただくことができるのです。

私たちの人生には、「ハードル」がつきものです。しかしお念仏を称え、込められた阿弥陀さまのお心を聞くことで、困難や苦悩に向き合う勇氣が、時には乗り越え、時にはくぐる勇氣が与えられる。「周りの声に振り回されていたなあ」「凝り固まった考えに、捉われていたなあ」と気づかされ、解きほぐされ、新たな視点も開かれる。ハードルがハードルではなくなっていく。そんな柔らかかで、そして自由な生き方への道が、既に届けられてあるのです。

快適さを求めることで、逆に不快さを増している現代社会において、改めてその有難さをいただき直さねばなりません。■



## 極楽寺 Tシャツ 好評受付中!

一枚 1,000 円のご懇志でお渡しします。  
受け付けてから発注しますので、少し時間がかかります。

古い仏具 使わないお線香  
お寺へお持ちください

本堂に回収箱を設置してあります。

物でお布施  
mono de ofuse

プルトップも、  
集めています!



書き損じはがき・未使用切手・未使用テレフォンカード  
商品券やビール券など金券・CD・DVD・ゲームソフト  
ゲーム機器など。

未使用タオルやバザー品となるようなものも、  
受け付けています!

本堂正面から入って右手奥に、  
回収箱を用意しています。

# 子ども会のご案内

大津東組

(長門・三隅地区の真宗寺院の集まり)

## キッズサンガ

火起こし体験と  
飯盒炊飯



8月29日(木)

俵山 西念寺

13時極楽寺集合 20時半頃帰宅

送迎は、お寺で行います

参加費 500円

8月15日までに、  
お寺へお申し込みください。

極楽寺

## 夜の子ども会

花火と  
かき氷の夕べ



8月19日(月)

夜7時30分から9時には終わります。

## 極楽寺境内にて

申し込み不要・参加費なし

中高生も、どなたでもどうぞ

詳しくは、お寺へおたずねください。



□ 胃の痛い日々が続きます。プロ野球セリーグは、近年まれに見るダンゴ状態。我がカープは、前半戦を終了した時点で二位につけてはいるのですが、まったく打てず、ギリギリの展開ばかり。「いつ連敗してもおかしくない」と、ハラハラする毎日です。ところが、本来一番胃の痛いはずの新井監督は、どっしりと構えていつも笑顔。内心はどうかわかりませんが、あんな<sup>ふんいき</sup>雰囲気を作ってくれ

たら、選手はやりやすいでしょうね。確かな支えがあるからこそ、人は思い切って踏み出すことができ、モチベーションも上がるのだと教えられています。□ ところでご報告が遅くなりましたが、長女の真由子が、四月から大阪の<sup>そうあい</sup>相愛大学に通っています。極楽寺に何度も来ていただいた、<sup>しゃくてっしゅう</sup>釈徹宗先生が<sup>がくちょう</sup>学長を勤められている大学です。小さな大学ですから、釈先生も気にかけてくださり、先日はメールで様子を伝えてもいただきました。ただただ、感謝です。そんな有り難さを感じながらも、腹の中では、「しめしめ。これで、また釈先生とのご縁が<sup>えん</sup>途切れず、<sup>とぎ</sup>つながっていくぞ」とほくそ笑んでいる私がいりして。しかもそんな<sup>したごころ</sup>下心を、<sup>しおく</sup>仕送りを送るモチベーションにしているのですから、何とも浅ましい限りです。(住職)

# 三隅親鸞聖人 鑽仰会法会の ご案内

九月十四日(土)  
十五日(日)

両日共午後一時半より

講師 本多静芳先生

東京 万行寺住職  
東京仏教学院講師



三隅地区八ヶ寺を順番に会所として勤修される親鸞聖人鑽仰会法会。

今年には極楽寺が引き受けとなります。お誘い合わせでお参りください。

次回法座の予定

納骨堂追悼法要 9月22日(日) 秋分の日

秋の永代経法要 11月6日(水) 7日(木)

御講師 荻 隆宣 師(渋木 浄土寺住職)

おわび

6月号の決算報告支出の部慶弔費の詳細で、西村一夫元世話人とすべきところを、上田治夫元世話人としておりました(上田治夫さんのお名前を、二重に掲載してしまいました)。深くお詫びすると共に、訂正させていただきます。